



アジアから来た13人が、放射線サーベイを研修

7月としては過去最強クラスといわれた台風8号の影響を考慮し、日程を延期して福島県楡葉町で実施されたサーベイ実習。雲はあるものの30度近い気温。蒸し暑い。しかしアジア諸国の研修生たちは、暑そうなそぶりは一切見せない。

このサーベイ実習は、文部科学省から「放射線利用技術等国際交流（講師育成）」の受託事業として行われている研修の一つ。1996年にインドネシアとタイを対象として始まった。今年はバングラデシュ、インドネシア、カザフスタン、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム、マレーシアの8か国から来た13名が、サーベイ実習に参加した。

福島県で実習が行われるのは、2011年から今年で4回目。昨年からは楡葉町役場のご協力により、同町の休耕田で行っている。今年も、去年と同じ休耕田で行われた。

報道陣が見守る中、バスから降りるとすぐに実習の準備。右の写真は、必要な機材を確認し機材を運ぶ研修生たちのようすだ。今年は去年参加した研修生が一人アドバイザーとして参加しているので、スムーズに事が運ぶ。



一昨年 8 月に警戒区域から避難指示解除準備区域になり、今年(平成 26 年)の 2 月には、常磐自動車道(広野 IC~常磐富岡 IC 間)が再開。6 月には JR 常磐線広野(広野町)ー竜田(檜葉町)間が運転再開され、住民の帰還への準備が一步一步進んでいる。ころなしに周辺を行き交う道路の交通量も去年より増加しているようだ。

今回の研修内容は、「空間線量率の測定」「土壌・草および水の試料採取」「空気サンプルの採取」の 3 つ。まずは、ダストサンプラーで 1 時間程度空気を採取。掃除機のような吸引音が鳴り響く。

続いては、土壌の採取。シャベルで丁寧に土を掘り、容器に天地を変えずに入れる。

各班に分かれた研修生たちは、長期の研修の中でチームワークが培われたのか、非常に和やかな雰囲気で作業をこなしていく。



バングラデシュから来た研修生は、「福島に来るまでは、私ばかりでなく、多くの方が福島の放射線レベルは非常に高いものだと思っていた。しかし、福島に来て実際に計ってみると、 $0.2 \mu\text{Sv/h}$ とバングラデシュのバックグラウンドとほとんど同じレベルで、全く問題のないことがわかった。このことを母国の人たちにも伝えたい」と福島の現状の率直な感想を、地元記者の取材に熱く伝えていた。

マレーシアの女性研修生も同様に答えており、各国の自然放射線の状態も知ることができた。

サーベイ実習の後に立ち寄った、天神岬スポーツ公園の南側から見える景色が、右の写真だ。そこにはクレーン車と黒い塊が積み上がっている「仮置き場」、そして「広野火力発電所」の煙突。どちらも大きい施設だからかとても近く見える。

震災から3年が経過し、マスコミの関心も高まったアジアからの外国人研修。福島での実習体験が、今後、原子力の人材育成に役立つことを祈る。



TOPICS 福島 No. 51

独立行政法人日本原子力研究開発機構

福島研究開発部門 福島事業管理部

〒960-8031 福島県福島市栄町 6-6 NBF ユニックスビル 1階

TEL : 024-524-1060 FAX : 024-524-1073 HP : <http://fukushima.jaea.go.jp/>